

神奈川の道徳

神奈川支部学習会報告

充実が叫ばれつつも容易にその意図が学校現場に浸透してこなかった道徳授業、その時間が「特別の教科 道徳」として生まれ変わろうとしています。道徳教育改革の山が大きく動いたといっても過言ではありません。このような節目の時期、本支部では会員への啓発とよりいっそうの発展を意図して支部学習会を開催しています。

(支部長 田沼茂紀)

第1回学習会 「道徳教育に思うこと」～道徳の授業の一考察～

講師：星野延平先生（神奈川支部副支部長、前川崎市立桜本中学校校長、前神奈川県中学校教育研究会道徳部会長）

日時：平成26年3月2日（日）14:00～15:30

内容：中学校に38年間勤務した経験をもとに講師が次のような話をされた。

- ・道徳の時間は、教師が多く語るのではなく、子どもの話を引き出して聞いていく場である。まずは学級経営が基盤となり、自分の考えを言える学級かどうかが大切である。「どんな発言をしても許される学級」であるべきである。それには、普段教師が子ども一人一人の声にどれだけ耳を傾けているかが大切。忙しい時ほど、悠然と構えて聞く姿勢がほしい。
- ・道徳では、子どもの意見をしっかり受け止めて、他の子どもに広げていくことが大切である。声に出して意見を言っている子どもは数人かもしれないが、聞いている子どももしっかり考えるような授業にすれば、全員で考え合っていることになる。そういう意味で、教師と生徒が1対1で話しているのではなく、子どもたち同士をつなげていくことが大切になる。「同じことを言っている、AさんとBさんは少し違うね。どう違うのだろう。」と考えていくことが広がることにつながる。考えは十人十色、違う見方を知ることが大切である。
- ・道徳の時間には、自分がどれだけ考えたのか、自分の考えをどれだけ深めたのかが大切になってくると思う。



第2回学習会 「道徳の時間の評価に関する実践的研究」～教科化に向けての取り組み～

講師：富岡栄先生（神奈川支部理事、高崎市立第一中学校校長）

日時：平成26年6月7日（土）14:00～15:30

内容：道徳の教科化が話題になっている中、道徳の時間における具体的な評価を示し、実践を通して検証することで、今後の評価の一助とした。道徳の時間の評価では、①ねらいを明確にし、そのねらいに対して子どもたちが学ぶものは何かを具体化すること、②その時間で学んだことを子ども自身が自覚するため（メタ認知）に自己評価を取り入れることを留意する必要があると考えた。具体的な評価方法として①チェックリストによる評価方法（教師がチェックする、生徒が、自己評価しチェックする両方）、②パフォーマンス評価法、③面接法による評価、④ポートフォリオ評価法を示した。検証する中で、次のことを考察した。

- ・評価は道徳的成長を促進させなければならない。さらに、自己評価を取り入れることで、メタ認知力を高めることも念頭に置きたい。
- ・発言、記述文、面接法を相互補完的に組み合わせることが道徳の時間の評価では必要かつ重要であると思われる。
- ・ある程度のスパンの中で評価することも必要である。ポートフォリオ評価により、自分の道徳的成長を見取らせたい。

質疑：○道徳の時間のねらいに向けて子どもはどうか評価することはあっても、道徳性の評価は難しい。子どもの人間性を否定しかねない。→今回は1時間のねらいに従いどう評価するかということ考えた。行動ならびに道徳性の評価は長いスパンの中で考えていく必要がある。また面接法（個人的に話す）が重要になってくる。

○認知と行動は必ずしも一致しないので、道徳の授業をしたからといって即実行に伴うことはない。しかし、道徳の学習を見つめなおしていくのは大事。道徳の評価は心情論的に語られることが多い。しかし、目標分析が必要で、その目標に合わせた子どもの見取りが重要である。プログラムの・単元的に評価を考えていくことが大切だろう。



第3回学習会 「中国の学校道德教育の現状と課題について」

講師：師艶栄先生（天津社会科学院日本研究所副所員）

日時：平成26年9月6日（土）15:00～16:30

内容：中華人民共和国成立以後、中国の学校道德教育は、①政治化した学校道德教育（1949～1978年）、②規範化した学校道德教育（1978～1990年）、③人間本位化した学校道德教育（2000年以降）の3つの段階に分けられ、思想・政治教育から子どもの主体性・生活性を重視した人間本位の教育に変容していった。一方、道德教育は理論的に学校教育の筆頭としての位置を占めているものの、学歴社会と受験競争という圧力に屈して道德教育を軽視せざるを得ない状況がある。教育現場での道德授業に対する投資は少なく、実践活動があまり重視されてこなかった。学校道德教育に地域格差があることも大きな問題である。学校道德教育は理想的な道德品性を目指しているが、現実的な社会ではマナーや公衆道德を守らない大人が多い。中国政府の政策から見ると道德改革が進み、理念、目標、教科書等のいろいろな方面で道德教育は進歩しているが、受験教育の影響などの下、学校教育が形骸化しており、実践力不足が顕著である。日本と同様にいじめ等の問題が深刻化している中、専門的な教員による指導、道德授業の評価導入等、多面的な働きかけによる道德教育の充実が必要である。



質疑○中国古来の『論語』等の指導は行われているか。→儒学を中心とする『論語』『弟子規』『三字経』等の伝統文化の復活運動が行われ、小学生も儒学の経典を学習し始めている。しかし一部の学校でしか行われていない現状がある。

○道德を教える教師の資格は？→道德専門の教師はいない。一般的に国語の教師が行っている。

○教科書により道德性は高まるか。→教科書の内容は素晴らしいが、実際の現場では使われていない傾向がある。

日本道德教育学会神奈川支部研究大会開催！

【日 時】平成26年12月23日（火・祝）13:00～17:00 受付12:30～

【場 所】横浜市教育委員会 東部学校教育事務所 研修室A

住所：横浜市西区花咲町6-145 横浜花咲ビル4階 TEL:045-411-0607
横浜市営地下鉄ブルーライン高島町駅出入口1より徒歩3分

【テーマ】「心に響く道德授業を進めるための指導の工夫」～魅力的な教材活用や話し合い活動の充実を目指して～

【内 容】第I部研究討議（実践提案）

「魅力ある教材の開発と活用について」望月は美先生（相模原市立鳥屋中学校総括教諭）

「自分の考えを伝える小グループからの話し合い活動」奈良沙織先生（川崎市立渡田小学校教諭）

第II部記念講演 演題「これからの道德教育を考える」

講師 柴原弘志先生（京都市教育委員会指導部長、元文部科学省教科調査官）

【参加費】日本道德教育学会神奈川支部会員無料 一般参加者1000円

【問い合わせ】日本道德教育学会神奈川支部長 田沼茂紀

〒225-0003 横浜市青葉区新石川3-22-1 國學院大學田沼研究室

TEL(045)904-7677 FAX(045)904-7709 E-mail:stanuma@kokugakuin.ac.jp

詳しくはホームページにあります研究大会案内をご覧ください。

研究紀要『道標』第2号原稿募集

【原稿募集期間】～平成26年11月30日

【投稿資格】日本道德教育学会神奈川支部会員

【原稿送付先】

日本道德教育学会神奈川支部「道標編集委員会」

〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野1866

日本大学生物資源科学部教職課程研究室

※投稿規程について

昨年度、投稿原稿はB5判用紙としていましたが、今年度はA4判用紙での提出と変更いたしました。詳しくは神奈川支部ホームページの投稿規定をご覧ください。

奮ってご投稿いただきますようお願い申し上げます。

第4回学習会

神奈川支部による学習会を、支部会員に限らず、広く道德教育に関心をもたれている方を対象に行います。今回は赤坂雅裕先生（神奈川支部理事、文教大学教授）を講師に、「子どもに学ぶ道德授業」というテーマで開催致します。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

【日時】平成26年12月6日（土）

15:00～16:30

【場所】國學院大學たまプラーザキャンパス

（詳しい場所は当日の標示をご覧ください）

【神奈川支部ホームページアドレス】

<http://doutokukanagawa.com/>